

# 健全な財政 運営のために

## ～本宮市自主的財政健全化計画の見直しを行いました～

●なぜ自主的財政健全化計画が策定されたの？

市には、平成19年当時、公共施設の整備や工業団地の造成事業等による多額の借入金が残っていました。市民の皆さんへのサービスの維持向上を図りながらこれらの借入金を適正な額まで減らし、将来にわたって安定した財政運営ができるように、平成20年3月に「本宮市自主的財政健全化計画」を策定し、現在までこの計画に基づき財政の健全化に向けた取り組みを進めているところです。

これまでに2回の見直しを行っており、今回が3回目の見直しとなります。

●どうして計画の見直しが必要なの？

これまで市は、計画に基づき、財政健全化に向けて取り組んでおり、本宮市の財政状況は改善の方向に進んでいます。

しかし、平成23年3月に東日本大震災および原子力災害が発生し、財政を取り巻く状況が大きく変化しており、また、新たな財政需要も出てきていることから、それらの内容を含めた計画の見直しが必要となってきました。そこで、基本的な方向性は変えずに、変化に対応する内容の一部を改訂することとしました。

改訂にあたっては、人口推計の見直し、社会経済状況の変化を勘案し、駅周辺の整備、保育所幼稚園の保育料の助成などの新しい事業を見込んだ中で、財政収支の見直しを行い、「本宮市自主的財政健全化計画 第3次改訂版」を策定しました。

その主な内容をお知らせします。

### 計画期間中に実施を予定している主な事業

合併協議の中で基本計画事業や構想事業となっている事業については、見直しを行いながら、また、新たな事業については計画的に実施します。健全化計画の中で実施を予定している主な事業は次のとおりです。

分野	事業名
道路・橋梁、河川関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●掘切・赤坂線整備事業（名郷橋架け替え）</li> <li>●大山・松沢線整備事業（安達太良ドリームライン）</li> <li>●生活道路整備事業</li> <li>●【新規】橋りょう維持事業</li> <li>●阿武隈川本築堤関連社会資本整備総合交付金事業</li> <li>●【新規】本宮停車場・中條線整備事業</li> <li>●【新規】駅周辺等整備事業（本宮駅、五百川駅）</li> <li>●【新規】まちづくり道路整備事業（下町・小幡線、万世・中條線）</li> <li>●【新規】上ノ橋先線道路整備事業</li> </ul>
農業関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老朽ため池整備事業（岩根大池）</li> <li>●【新規】ため池整備事業（長屋滝池）</li> <li>●【新規】林道高松線舗装整備事業</li> </ul>
商工観光関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【新規】本宮市工業等団地企業立地事業</li> </ul>
教育施設関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岩根小学校整備事業（体育館改築）</li> <li>●公立学校等施設修繕および整備事業（エアコン）</li> <li>●公立学校等施設耐震化事業</li> </ul>
公共施設関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老人憩の家建設事業</li> <li>●白沢総合支所周辺環境整備事業</li> </ul>
消防施設事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消防ポンプ車整備事業</li> <li>●消防屯所建設事業</li> <li>●【新規】消防水利確保事業</li> </ul>
子育て支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども医療費助成事業（個人負担分無料化）</li> <li>●【新規】保育所・幼稚園保育料助成事業</li> </ul>

### 財政調整基金の残高について

平成25年度決算後の財政調整基金（一般家庭でいう普通預金）の残高は、前計画（第2次改訂版）では約5億3千万円と見込んでいましたが、実績額は約15億9千万円となる見込みです。



▲保育所・幼稚園の保育料を助成します

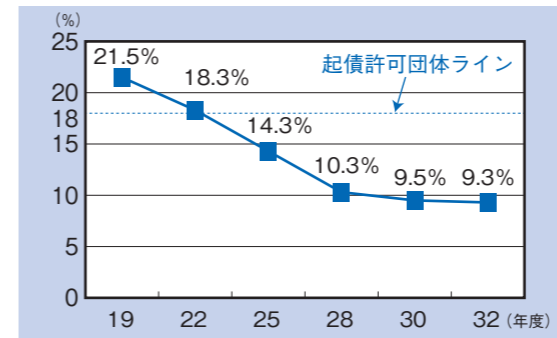
この計画の内容は、本宮市のホームページでも公開しています。  
◆問い合わせ先 政策推進課 政策推進係（内線219）

### 財政健全化法による4つの指標の見直し

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」では、財政の健全度を判断する4つの指標が定められており、市は、現在のところ4つの指標とも基準値を下回っています。

平成19年度決算では、実質公債費比率（※）は21.5%と高い値になっていましたが徐々に下がり、平成23年度決算以降は適正值（18.0%未満）になりました。今後も、計画的な財政運営を行うことにより、適正值を維持できる見込みです。

※実質公債費比率…市の財政運営に影響するすべての会計の借入金の返済に充てた経費がどれくらいあるかを表す。



実質公債費比率の推移

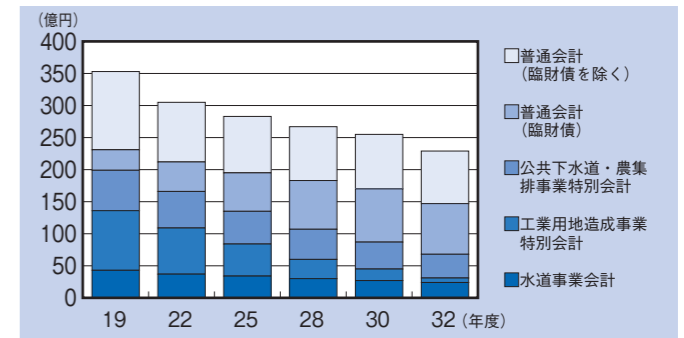
### 健全化計画における3つの重点目標

- 重点目標1 住民サービスの維持向上と産業の振興を図ります
  - 重点目標2 借入金を適正な額まで早期に減らしていきます
  - 重点目標3 「基本計画事業」(※)等を計画的に実施します
- ※合併協議の中で、最優先に取り組む事業に位置づけされた事業

### 借入金残高の推移

本宮市の借入金は平成19年度末に約353億円ありましたが、新たな借入をできるだけ抑え、平成32年度末までには、約228億円まで減らしていきます。（借入金には、※臨時財政対策債（約79億円）が含まれています。また、借入金残高については地方債は元金、債務負担行為は元利金となっています。）

※臨時財政対策債：普通交付税の肩代わりとしての性格を持つ特別な地方債です。償還金に相当する額を交付税として国から支払われます。



借入金残高の推移